

2023 年国連水会議開催記念シンポジウム

根本かおる国連広報センター所長による開会挨拶

国連水会議は、SDGs 達成期限への中間点にさしかかる中、私たちのいのちと尊厳にかかわる水に関する第 6 目標の推進にてこ入れを図るものでした。コネクターとしての「水」の役割が遺憾なく発揮され、結束すれば、これだけ機運を高め、多くのコミットメントを引き出せると示すことができました。

それから 1 ヶ月後の 4 月 25 日、グテーレス国連事務総長は『SDG 進捗報告書・特別版』を発表しました。「人類と地球のレスキュープランに向けて」が副題です。残念ながら、私たちは世界の半分以上を置き去りにしてしまっています。この特別報告書によると、データに裏打ちされた SDGs のおよそ 140 のターゲットのうち、順調に進んでいるのはわずか 12%。ターゲットの 50%の進捗は乏しく、不十分で、30%以上が、行き詰まっている、あるいは後退してしまっています。水に関する第 6 目標のもとにあるターゲットで、順調に進んでいるものはありません。SDGs は危機に直面しています。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックと、気候、生物多様性、汚染という三重の危機は、ロシアのウクライナ侵攻によって増幅され、壊滅的な影響を及ぼしています。その最大の打撃を受けるのは、脆弱な立場にある開発途上国です。気候変動を例に挙げると、温室効果ガスの排出にほとんど加担していない国々が、洪水・干ばつ・海面上昇という気候変動の被害を一番深刻に被っています。しかし対策を取る手段がありません。

先月開催された G7 広島サミットに出席したグテーレス国連事務総長の一番のメッセージは、国際金融機関の改革をはじめ、正義ある財政対応を軸とした「SDG 刺激策」の提唱でした。これを G7・G20 をはじめ多方面に呼び掛けています。

今年 9 月の国連総会ハイレベルウィークでは、その最も中核的な会議として「SDG サミット」が開催されます。これは、私たちが一致団結して形勢を変える分岐点としなければなりません。

日本社会には一つ希望があります。SDGs が広く浸透し、最近の調査では、90パーセントを超える人々が SDGs のことを知っているという回答するまでになっているのです。学校教育でも取り上げられるようになり、特に 10 代での理解度が深まっていること、そして SDGs に真剣に取り組んでいる企業への

好感度も高まっていることが浮かび上がっています。この広がり、水会議を受けたフォローアップや地域に根差した対策を取る上で非常に大きな財産になります。

SDGs の進捗は、単なる数字の問題ではありません。数字の裏には、安心して出産できるお母さん、健康に育つ赤ちゃん、未来を夢見て学ぶ子ども、笑顔あふれる家族の姿があります。きょうのシンポジウムを、SDGs の中核にある「連帯」をさらに強める機会にさせていただくことを願ひまして、私からのご挨拶に代えさせていただきます。